

解散総選挙、最大の争点は「民主主義を壊すな！」

◆冒頭解散は国会の自殺行為

九月二十八日、ようやく招集された臨時国会の冒頭で衆議院が解散されました。安倍総理の所信表明演説も各党代表質問も予算委員会の開催もないままに。さらに残念なのは与野党で既に合意していた北朝鮮非難決議の上程までも、安倍総理不信任案提出を恐れた与党によって潰されました。国連で各国に非難決議を呼びかけた当の安倍総理が自らの国会の決議は逃げるとは…。国会から論戦を除いたら何が残るのか？言論の府・議論の場、有権者国民への説明責任を果たす場である国会のまさに自殺行為に等しいあまりに情けない事態。私たち野党の欠席でがらんと空席目立った衆議院本会議場には与党議員の万歳三唱がいつも以上に虚しく響きました。

◆権力の暴走・安倍政治をストップ

安倍総理は「『都合解散』『逃げまくり解散』の批判に対し記者会見の中で解散の理由を示しました。しかし消費税増税の使い道変更も急速な少子高齢化の克服も「今？」の理由にならず、北朝鮮の脅威に至っては衆院解散の政治空白では本末転倒。言い訳にもなっていない解散理由でしかありません。これまでも選挙の前は景気回復・アベノミクスを喧伝し、いったん選挙に勝てば特定秘密法・戦争法・共謀罪など戦争をする国づくりを強行してきた安倍政治のスタイルがまた繰り返されようとしています。もしこの解散総選挙で安倍退陣に追い込めなければ、次は必ず憲法九条加憲・憲法改悪に。どんなに理不尽な解散総選挙でも勝って安倍政治ストップしなければなりません！

◆多様な意見が育てる民主主義！

安倍政治との対決となる解散総選挙を目前に野党側で残念な動きが表面化しています。分断しか生まない希望の党がふりまく「排除の論理」。これでは第二の独裁者を生みだしかねません。

政権交代可能な二大政党制の政党は幅広い党内意見を基に党内議論を進めていくもの。安倍総理の国会軽視が議会制民主主義を危機に陥れているように、与野党ともに党内部での党内民主主義のあり方も問われています。

あべともこは、子育て、働き方改革、原発ゼロ、核廃絶と平和など自分の政策をこれまで通り自信を持ってお話しし、藤沢・寒川のみならずとご一緒に私たちの民主主義を守りさらに強く育てます！



前衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川県 12 区 (藤沢市・寒川町)
当選 6 回 (比例南関東)、東京大学
医学部卒業、小児科医、あべとも
ここどもクリニック (湘南台) 理
事長、現在、厚生労働委員会委員・
原子力問題調査特別委員会委員



http://twitter.com/abe_tomoko



<http://www.facebook.com/abetomoko>

あべともこ

検索

最新情報をお届けします。

あべともこと共に歩む会後援会
入会のご案内及びボランティア
スタッフ募集中！

特定の企業や団体などに依存
しないあべともこの活動は、後援
会の年会費やカンパによって支
えられています。

あべともこの活動にご支援頂
ける方は、お気軽に事務所にお
問い合わせください。